

【令和8年度 授業改善推進プラン】

板橋区立板橋第二小学校

【国語】

■児童の状況	・自分の考えをもつことはできるが、言葉で表現することや相手に伝えることが苦手な児童がいる。 ・情報と情報を関係付けたり、図やグラフから読み取れることを言葉と結び付けて考えたりする力が育っていない。 ・発表する際に声の大きさ等、話し方の工夫ができていない児童がいる。 ・静かに話を聞くことはできるが、話の大事な部分や中心を押さえることができない。 ・語彙力が豊かでないため、表現に広がりがない。 ・自分の考えたことや思ったことを書くことの抵抗感が大きい。
■指導についての課題	・他の人の考えを自分の意見や考えと比較させる場が少ない。 ・書く単元で、個に応じた指導に課題がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・自分の思いや考えを、ペアや少人数グループや学級全体に伝える時間を多く設定する。 ・自分の考えや調べて分かったことを、相手を意識して発表する活動を増やす。 ・調べる内容、方法、まとめ方等を選択、決定、調整をし、児童自身が学習を進めていくことができるような単元を設定する。 ・図やグラフなどに表すよさを何かを押さえた上で、因果関係や事象を読み取ったり、自分の言葉で内容を説明したりする活動や時間を設定する。 ・スタディアップタイムでフォーム問題やプリントに取り組み、視写や校閲・読み取り問題などに取り組む。 ・要点を短くまとめたり、自分の考えを書いたりする活動を増やす。 ・授業中に問い返しをし、主語と述語の関係や指示語の内容を確認する活動を増やす。

【社会】

■児童の状況	・資料から情報を正確に読み取る力が不十分である。 ・調べたことをまとめることはできるが、情報を比較したり、自分の考えをまとめたりすることが苦手な児童が多い。 ・教科書に書かれている内容をもとにして、日常生活の場面に应用することが難しい児童が多い。 ・電子黒板のデジタル教科書を用いて、図と本文を紐付けたりする活動に、主体的に取り組んでいる。 ・調べた情報を自分の言葉でまとめることが苦手な児童が多い。 ・情報を共有する場では、目的意識をもって活動に取り組んでいる。
■指導についての課題	・資料と文章を対応させて考えられるような問い掛けが少ない。 ・教科書の文言を活用した定義のおさえが不十分である。 ・興味・関心や理解の個人差に対応することに苦慮している。 ・1人1台のICT機器をうまく活用できていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・日常生活に紐付けた導入を豊富にする。 ・資料と文章を対応させて読み取れるような問い掛けを増やす。 ・グラフから読み取れることに関する問い掛けを増やす。 ・根拠を基に自分の意見を発表できるよう、キーワードや定義を板書に明記する。 ・まとめをする際は、めあてに立ち返るように促す。

	・児童のタブレットを活用することでより主体的で対話的で深い学びを促す。 ・色線をつかって教科書から読み取れるものに線を引くなどの声掛けを行う。 ・単元のねらいを明確にし、見通しをもたせて計画・実行・振り返りを行う。教科書・資料・地図帳・タブレットなど学習教材や人の選択だけでなく、学習する内容も自身に合わせて選択・決定・調整させる。ただし、全員が確実にしておかなければならない事項については一斉指導で確認する。
--	---

【算数】

■児童の状況	・四則計算や面積の求め方、分度器の測り方やコンパスを使った作図など、基礎的・基本的な課題を解決する力が着実に身に付いてきた。 ・図や式、言葉を用いて「なぜその答えになるのか」という解決のプロセスを筋道立てて説明することに、課題がある。 ・文章問題や応用問題になると、読解力に差があるため正答に個人差がある。
■指導についての課題	・思考の根拠を表現させる活動が不足している。 ・授業時間内に、個別の学習支援が十分にできていない。 ・ペア学習や集団解決など、友達と考えを交流する時間が少ない。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・一斉指導による基礎・基本の習得(Input)の後には、個別最適な学びを目指し、児童が学び方を選択しながら学習できる環境づくりを行う。 ・根拠となる資料や式、自分の考えをノートに書く活動を充実させ、考えを整理・可視化できるようにする。 ・読み解く力の分類を踏まえた話し合い活動を取り入れ、友達の考えとの共通点や相違点を比較・交流することで、自分の考えを深めたり修正したりしながら、主体的に学び合えるようにする。 ・すららドリルやプリント学習を活用し、一人一人の習熟度に応じた補充・発展学習を日常的に行う。また、放課後教室や長期休業中の補習教室を活用し、基礎的な学力の定着を図る。

【理科】

■児童の状況	・環境教育への意識が高い。 ・既習事項から根拠をもって予想できる力が育まれている。 ・ノートに観察や実験をした結果や考察をまとめる力が不十分である。 ・スタディアップタイムにより資料と文章の結び付けが上手になった。 ・事象と事象を関係づけて結論付けることに課題がある。 ・事象や物体を比較し、分類する力が不十分である。 ・観察や実験で得られた結果を根拠として、自分の考えを表現する力に個人差が見られる。 ・自分なりの見通しをもち、方法を選択・調整しながら学習を進めようとする姿が見られるようになってきた。
■指導についての課題	・問い返しが一問一答になってしまっている。 ・教科書の文言を活用した定義の定着が不十分である。 ・自分で考えた予想と結論を結び付ける時間を確保できていない。 ・観察・実験の目的や方法を児童自身が考え、選択・決定する場面をさらに充実させる必要がある。

■授業革新推進に 向けての具体的な方策	・児童の意見を繋げるような問いかけを増やす。(一問繋答) ・根拠を基に自分の意見を発表できるようにキーワードや定義を板書する。また、まとめをする際に自分の言葉でまとめるよう促す。 ・実験の手順について、写真と文を対応できるよう問いかけを増やすとともに、デジタル教科書を活用する。 ・実験を、タブレットを用いて記録し、いつでも見返すことができるようにする。 ・実験を教師側が用意するのではなく、児童が計画的に実験の計画を立てることで選択、決定、調整できるようにしていく。 ・「予想→実験→結果→考察→振り返り」の過程を大切にし、予想と結果を比較しながら根拠をもって考察できるようにする。 ・学びの手引きや振り返りシートを活用し、自分に合った学習方法を選択したり、学習を振り返って次の学習に生かしたりする自己調整学習を充実させる。
------------------------	---

【生活】

■児童の状況	・ビオトープにいる生き物に興味をもち、ながめたり、さわったりしている。 ・調べたことや感じたことを絵や文で表現する際の、表現力や意欲に偏りがある。 ・校庭に生息している生き物について、自分たちで世話の方法を調べ、世話をしている。 ・観察カードに描くもの、学校案内の場所を積極的に選択している。
■指導についての課題	・見たことや感じたことなどを主語、述語に気を付けながら文を書く指導が不十分である。 ・カードなどに表現したことを、自分の言葉でわかりやすく友達に伝える学習が少ない。
■授業革新推進に 向けての具体的な方策	・主語や述語を意識して文を書くように指導を行う。 ・活動前の話し合い(既有体験等を基に類推したり、推測したりする)や、活動後の振り返り、伝え合い、表現活動などの言語活動を充実させる。 ・季節の俳句や自然観察カードの取組と連携して、季節ごとの植物や生き物を調べたり、全体で共有したりする時間を設ける。 ・観察カードに描くもの、学校案内の場所、おもちゃづくりでつくるおもちゃなどを自分たちで選択、決定、調整して取り組む。

【音楽】

■児童の状況	・楽器の演奏やタブレット端末を用いた活動に積極的に取り組んでいる。 ・感じ取ったことを自分のイメージや感情、経験と関連させることが難しい。 ・高学年になると、歌声に自信が持てない子が多くなったり、発言する児童が限られてしまったりしている。
■指導についての課題	・技能面での個人差が大きく、個に応じた指導が不十分である。 ・個に応じた進度別の課題を設定し、目標を持って取り組めるようにする。 ・自分の表現や演奏の良さ・課題を認識し、次の活動に調整していく振り返りの機会や手立てが不十分である。 ・「学習の見通しをもつ」「目標を自分で意識する」など、自己調整型学習の基盤となるメタ認知的な指導が系統的に行われていない。 ・児童が学習の見通しをもち、自ら目標を設定しながら学習を進める場面を計画的に設定する必要がある。
■授業革新推進に	・器楽合奏やリズム活動の場を意図的につくることで、一人一人が思い

向けての具体的な方策	やめあてをもてるようにする。 ・旋律の特徴や音の高低・リズムなどの「読み解く力」を育てるために、図やスコア(楽譜)と音源を対応させて視覚的に整理し、ICT を用いて視点を明確に示す。 ・学習の始めに本時のめあてと個人の目標を確認し、学習後には演奏や表現を振り返って改善点を考え、次時の学習へ調整する活動を取り入れる。 ・楽譜、歌詞、音源、演奏動画などを関連付けて活用し、音楽を構成する要素を根拠として音楽の特徴や表現意図を読み取るなど、読み解く力を育成する。 ・タブレット端末を活用して模範演奏や自分の演奏を録音・録画し、客観的に比較・分析することで、一人一人の課題に応じた学習を支援する。 ・ペアやグループで互いの演奏や表現を聴き合い、よさや改善点を伝え合うことで、多様な表現に気付き、自分の表現を深められるようにする。
------------	--

【図画工作】

■ 児童の状況	・つくることや表現することに意欲的な児童が多く、自分の考えを生かして作品づくりに取り組む姿が見られる。 ・自分の思いや考えを言葉で表現したり、友達と関わりながら学びを深めたりすることには個人差があり、自ら学びを調整する力をさらに育てる必要がある。
■ 指導についての課題	・児童一人一人が自分に合った方法で学習を進めたり、必要に応じて友達と学び合ったりする力をさらに伸ばしていく必要がある。 ・表現や鑑賞の場面で、自分の考えを言葉で伝えたり、友達の考えを広く聞いて自分の学びを深めようとする力を育成する必要がある。
■ 授業革新推進に 向けての具体的な方策	・教科書や作品、資料等を比較したり関連付けたりしながら読み解く活動を取り入れ、表現の工夫やよさを捉える力を育成する。 ・学習のめあてや活動内容、表現方法などについて児童が自ら選択・決定できる場面を設定し、自分に合った学び方を選べるようにする。 ・学習の途中で振り返りや友達との対話を取り入れ、自分の活動を見直したり調整したりしながら学習を進められるようにする。 ・ICT機器や教師が作成した資料・動画を活用し、児童が必要なときに情報を確認しながら、自分のペースで学習を進められる環境を整える。 ・鑑賞活動を充実させ、多様な表現に触れながら、自分の考えを言葉で伝えたり作品づくりに生かしたりする機会を設ける。

【家庭】

■ 児童の状況	・裁縫、調理といった学習に対する関心、意欲が高い。 ・日常生活における経験に個人差が見られる。 ・教科書の資料から正しく読み取り、理解する力が不十分である。 ・身に付けた技能を実生活で生かしていく力が不十分である。
■ 指導についての課題	・技能面での個人差が大きく、個に応じた指導が不十分である。 ・実習の楽しさが先行してしまい、学習のねらいや身に付ける技能や理解が十分ではない。 ・学習したことを家庭での実践に繋げることが難しい。 ・教材教具の提示方法を工夫できていない。
■ 授業革新推進に 向けての具体的な方策	・日常生活を振り返り、その中から自身の課題を見つける時間を設ける。また、学習したことが普段の生活に生かせることを恒常的に伝えておく。 ・教科書の写真と文章を対応できるよう問いかけを増やす。 ・振り返りの視点を明確にし、実生活に生かせるように促す。 ・児童が単元の目的や学習内容を把握し、めあてや課題等を選択

	して学習を進めていくことができるように単元計画を立てる。 ・ICT機器の写真や動画を児童自らが活用できるようにする。活用し、個に応じた助言ができるよう授業展開を工夫する。 ・家庭の協力を得ながら、学んだことを家庭生活で活かしていこうとする意欲を高める。 ・調理実習や裁縫の作品作りでは、ゴールに向けて手順や必要な技術を自ら気づき学習を進められるように授業展開を工夫する。 ・日常の中にある課題や疑問を考えさせることで学習についての意欲を高める。
--	--

【体育】

■児童の状況	・多くの児童が楽しみながら授業に取り組んでいる。 ・ペアやグループで協力しながら取り組める児童が多い。 ・練習方法を工夫したり、考えたりするのが苦手な児童がいる。 ・運動に苦手意識をもち授業に意欲的に取り組めていない児童がいる。 ・技能面では個人差がある。
■指導についての課題	・自己調整型の内容への取り組み方を定着させられていない。 ・運動についての効果的な場の設定、助言や言葉かけが十分に行えていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・どの児童も意欲がもてるように、ルールを工夫してゲームをする。 ・毎時間めあてに対して振り返りを行い、次の授業に個人の課題をもって取り組めるようにする。 ・スモールステップの場を作り、どの子も達成感を味わえるようにする。 ・友達同士で教え合うことができるようにペア・グループ学習をする。 ・児童が参考にできるような資料を用意する。 ・体力テストの結果から、足りない部分を補えるよう運動の習慣化を目指し、体育館や校庭など、体力向上に向けて場の工夫を行う。 ・課題解決するために、器械運動領域を中心にタブレット端末を活用する。 ・自己調整型学習を毎単元取り組ませることで、体育のトライタイムを定着させる。 ・体育専科による TT 授業を行い、指導法の意見交換を行う。

【外国語】

■児童の状況	・あいさつやアクティビティには意欲的に取り組んでいる。 ・理解度や定着度の個人差が大きい。 ・絵や形、数と、それに対応する英語をあわせて覚えられている児童が少ない。 ・年齢が上がるにつれて、発声することやアクティビティに対して恥ずかしさを感じる子が増えてくる。 ・活動的な学習以外の時間にあまり集中できない児童がいる。 ・youtubeなどの動画で体を動かしながら外国語に触れる活動は、非常に意欲的に活動する。
■指導についての課題	・1時間ごとのねらいを深く理解し授業を行えていない。 ・児童の理解度や定着度に応じた指導ができていない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・外国語担当の教員や ALT から指導方法についての助言を受け指導に活かす。 ・身に付けるべき授業や文型の定着度をみとりながら授業を行う。 ・チャンツや歌、踊りなどを適宜取り入れる。 ・授業で目標とされる文型以外の文型にもふれさせる。 ・単語だけで発言せず、主語と述語も加えて言うような場面を設定する。 ・絵や数(時には英文字)などと対応させて発音練習を繰り返す時間を多く設ける。

	・発音練習や文法の解説が、後のアクティビティにつながることを伝えながら授業を進める。 ・本時で達成してほしいことを伝えるなど目的意識をもたせる。また、それについてのふりかえりを書く機会を設ける。 ・活動的な学習以外の時間にも集中できるよう促す。
--	--

【総合的な学習の時間】

■児童の状況	・自ら課題を見付けたり、課題解決のために情報を整理したり、分析したりして考える力と自ら工夫して表現したり、発信したりする力が不十分である。 ・インターネットを活用して情報収集し、児童が調べたことなのか、自分の考えなのかを意識して表現することができていない。 ・インターネットの情報を頼りすぎる傾向があり、学校図書館の本を活用して調べる活動が少ない。
■指導についての課題	・単元の導入を教師が意図的に計画し、児童が自ら課題を見付け、見通しをもって取り組めるような学習計画を立てる必要がある。また、授業における教師の関わりなどの工夫、改善の必要がある。 ・次の活動への学びの意欲、探求的な学習ができるよう学習成果をデータやドライブ上だけでなく、様々な方法を児童が選択して活用することができていない。 ・各学年の学習課題がSDGsの実現にどのように関連するかを明らかにし、意識を高めて取り組む必要がある。 ・一人一台端末だけでなく、個別最適な学びや自由進度学習を意識し、学習形態に合わせてまとめさせる指導が不十分である。 ・地域等の人材を活用した活動を取り入れて行く必要がある。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・単元づくりにおいて探究的な活動の流れ(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を重視し、各段階の活動の目的や必然性を意識した授業を行う。 ・まとめ方や発表については、スライドだけでなく、模造紙や紙芝居、新聞形式など様々な方法を提示し、まとめ方を自分で選択し、工夫できるように指導をする。 ・体験的活動を取り入れたり、地域の人材を活用したり、共通体験の場を設定したりして児童の探究意欲を高める。 ・単元の始めには、児童自ら課題解決に向かえるようにするため、活動の方向性を決める時間を設ける。 ・情報を分析したり、意思決定が必要となったりした際、話し合いの場を設定する。 ・情報収集に必要な図書資料を学校図書館や東板橋図書館等に依頼し用意する。 ・目的や相手意識を明確化し、まとめや表現活動よりも資料の整理や分析、発表に対する意見の交流に重点を置いて指導を行う。 ・タブレットパソコンのジャムボードやオクリンクを用いてペア学習やグループ学習などで意見交流を行わせる。 ・3～6年で系統性をもってSDGSについて4年間を通して学べる単元を設定する。

【道徳】

■児童の状況	・自分の思いを素直に発表することができる児童が多い。 ・発表することが苦手な児童もいる。 ・道徳ノートに自分の思いを書き、表現できる児童が増えてきた。 ・登場人物の心情理解や一般的な感想にとどまり、自分の生き方やこれからの行動を見つめ直すところまで深まっていない児童が多い。
--------	--

■指導についての課題	・国語のような、登場人物の心情を読み解く学習になっている。 ・教師と児童の一問一答やりとりで授業をすすめてしまうことがある。 ・ペアで話し合うこと、全体で伝え合う場が少ない。 ・教材から離れて自分自身の生き方や考え方をじっくり考える時間の確保が十分ではない。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・教材について、わかりにくい言葉や文の意味は、言葉の意味を確認しながら読みすすめる。 ・デジタル教科書を活用しながら、教材提示を視覚的に行い、教材の世界に浸るようにさせる。 ・ペア活動、集団での話し合い活動を多く取り入れる。 ・全員が意見を共有する場をできるだけ増やす(ペア・グループ意見交流)。児童からの正直な本音や心の葛藤を引き出し、様々な意見が出ることを受け入れる。 ・考えの変容や比較を視覚的に分かりやすくするために、文章表現だけでなく、感情メーターや思考ツールを効果的に活用する。 ・道徳ノートの記述から、児童の思いや考えを教師が受け止める。 ・授業の後半を教材から離れて自分自身の生き方や行動をじっくり見つめ直す時間として位置付け、自分事として考えを深めるための発問をする。